

答 辞

長かった冬も過ぎ、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日、私達卒業生一同は帯広畜産大学を卒業します。

本来、卒業生、教職員、保護者の皆様が一堂に集まり、卒業式を行うところ、新型コロナウイルス感染症の影響により、式典を中止せざるをえないことは誠に胸ふさがる思いです。

本日は、このような形になりましたが、卒業生を代表して、これまでお世話になった皆様に御礼申し上げます。

6年前、私は自然豊かで広大な十勝と獣医学への憧れを胸に抱き、帯広畜産大学に入学いたしました。それと同時に慣れ親しんだ地元を離れることへの不安と寂しさを感じていたことを今でも覚えています。入学当初は帯広畜産大学の特色のある活動や実習に戸惑うことが多くありました。その中でも特に印象深いのは豚の飼育実習です。その実習は、毎日交替で豚の世話をし、肥育後の豚をソーセージに加工して、育てた野菜とともに収穫祭で頂くというものでしたが、これまで畜産業に接したことのなかった私は強い戸惑いを感じていました。しかし、この実習を通じて、「農場から食卓まで」の視点を養うことができ、命の大切さ、命に対する責任を学ぶことができました。

二年次以降は幅広い分野にまたがる獣医学の講義や実習が始まり、絶え間なく課されるレポートや試験、長時間にわたる実習を苦しいと感じたこともありました。しかし、奮闘した日々には常に同じ志を持つ仲間が存在があり、励まし合いながら課題に取り組んで参りました。苦楽を共にしたかけがえのない仲間、その仲間たちと過ごした時間は宝物です。

四年次以降は研究室に配属され、新しい生活が始まりました。原虫病研究セ

ンターに所属した私は細胞とトキソプラズマ原虫を用いた研究を行いました
が、失敗が続き実験が思うように進まないことが多く、途方に暮れることもあ
りました。そんな時に支えて頂いたのが、親身にアドバイスをくださった先生
方、面倒見の良い先輩方、そしてかけがえのない同期や後輩達でした。また、
国際連携活動に力を入れている本学は、留学生が多く、私の所属する研究室で
はメンバーの半数近くを占めておりました。異なる言語や文化、価値観を持つ
がゆえに、誤解が生じたり、時には衝突したりすることもありました。しかし
その中で、より上手くコミュニケーションを取るために試行錯誤した過程や、
多様な視点に触れたことは、グローバル化が進むこれからの日本社会を生きる
上で貴重な経験になりました。そして何よりも国や人種を超えて彼らと共に学
び、友になれたことを大変嬉しく思っております。研究室生活を通じて、一生
の財産となる素晴らしい出会いを授かり、物事の客観的・論理的な考え方、失
敗を糧として地道に努力することの大切さを学びました。

こうして振り返りますと、学年が上がるにつれ入学当初の不安な気持ちはい
つしか消え、大学は私の大切な居場所となっていました。仲間とともに学んだ
教室、団欒をしながら昼食を食べた食堂、キャンパス内の白樺並木、農場、学
内のあらゆる場所に思い出が詰まっています。大学生活は瞬く間に過ぎていき
ましたが、私達は実りの多い日々を過ごすことができました。十勝で過ごした
年月はかけがえのない貴重な時間でした。

この春から、私たちは新しい扉を開きそれぞれが選択した道を歩み始めま
す。新しい環境で困難や試練に直面することがあっても、これまでに身につけ
た様々な経験を生かし、希望をもって一步一步前に進んでいくことを約束いた
します。

最後になりましたが、未熟な私達を熱心かつ親身にご指導してくださった先生方、大学生活の様々な場面で支えてくださった職員の皆様、そしてどのような時にも一番近くで支えてくれた家族があつて初めて、こうして卒業の日を迎えることができました。卒業生を代表して、私達を支え、導いて下さった全ての方に心より御礼申し上げます。そして、皆様方のご健康と帯広畜産大学の更なる発展を願い、答辞といたします。

令和2年3月19日

帯広畜産大学 学生代表

共同獣医学課程 金月 綾